

学生や^元技術者、小学校へ

中国地方 配置増える

頼れる理科支援員

小学校の理科室に、頼もしいサポートが現れた。文部科学省が導入して二年目に入った「理科支援員」である。理系の大学生、退職した元教員や元技術者…。子どもの「理科離れ」が指摘される中、さまざま

まな経験を持つ支援員に授業のこ入れを期待する声が高まる。中国地方でも少しずつ配置校が増えて

(松本大典)

福山市神辺町の竹尋小の理科室。五年二組の授業で、黒板脇のモニターにウニとクラゲの卵や幼生の画像が映し出された。

実験・観察を補助

この日の単元は「生命の誕生」。教科書にはウニもクラゲも登場しない。福山

田愛子さん(22)が「違いが分かりやすい」と教材を選んだ。

「さあ、比べてみよう」。担任の松岡智浩教諭(47)の合図でグループ学習に入る

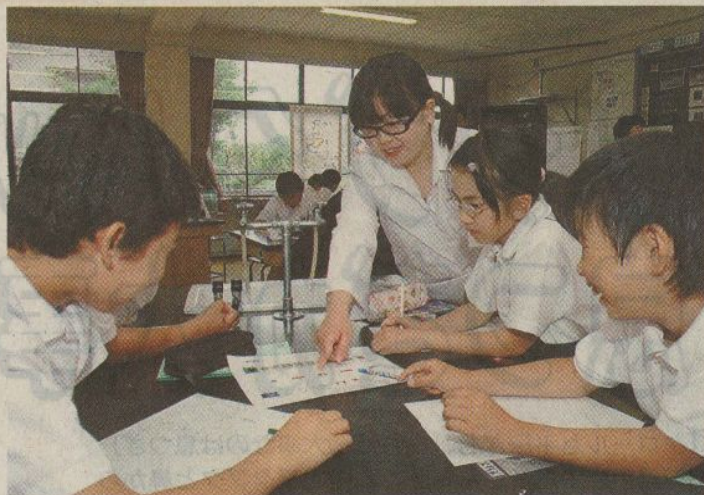
文系職場に新

と、過田さんは室内を巡り始めた。「どう思っ」「色もよく見て」。うづむき

竹尋小の理科室で、児童の質問に答えて歩く過田さん(中央)

ほか、授業づくりや教材開発も支える。過田さんのような理系の人材を活用することで、「理科離れ」に歯止めをかけたといふ狙いがある。

全国約三千五百校を対象とした国立教育政策研究所



理科支援員 文部科学省は2007年度、20億円の予算で全国2762校に3715人を投入。年平均で一人約70時間活動した。08年度は24億5000万円を予算化している。実質的に

クリック

は都道府県、政令市の教育委員会がコーディネーターを設けて運営。採用方法や条件などに差があり、一定の研修を義務づけている。給料は一時間1000円程度が目安になっている。

H20.6.30.(A)

公立小中学校の教員は勤務地の市町村職員扱いだが、採用や配置などの人事権は都道府県・政令市教委にある。地方分権の流れを受け、人事権の市町村への移譲をめぐる議論が続いている。

給与を都道府県と国が負担する現在の仕組みは、市町村が財政力に左右されず教員を確保でき、教育力に格差を生まない利点がある。一方、異動が多いた

タツクわ〜

め教員が地域に愛着を持ちにくく、特色ある教育が継続できないとの指摘も根強い。

教員人事権

中国地方でも、松江市、出雲市など移譲を求める自治体もある。ただ、教員の都市部への集中なども予想される中、自治体間の人事調整や、給与財源のあり方などが課題となる。

中核市の教委、将来的には全市町村教委への人事権の移譲を提言。政府の地方分権改革推進本部が今月二十日に決定した推進

(東京)の二〇〇三年度調査。理科を「好き」「どちらかと言えば好き」と答え

しい風

た児童の割合は、小五(74・2%)と小六(64・1%)で10・1ポイントの開きがある。落ち込み幅は、小六から中一の2・8ポイント、中一から中二の2・6ポイントなど学年間と比べても大きさが目立つ。

「質問しやすい」

背景には、授業時間数の削減がある。学習指導要領

で定める小学校の理科の時間は、詰め込み教育批判などの影響で、一九七七年の改定以後、減り続けた。六年間のトータルでは、三十年前の六百二十八時間に対し、現在は三百五十時間(時間)より少ない。

「ゆとり教育」の流れをかえる二〇一一年度からの新学習指導要領では、理科の授業は五十五時間増の四百五時間となる。教室に投入される理科支援員は、新要領の柱となる「理数教育の充実」の切り札だ。

広島県教委は本年度、公立小全四百八校のうち三十五校(前年度比二十三校増)に理科支援員を配置。広島市教委も全百四十校のうち二十四校(同七校増)に送り込む。

中国地方の他県教委では山口が七十九校(同二十二校増)、島根が五十一校(同二十四校増)に置いた。岡山は配置する学級数の目標として前年度実績比七十三

増の百八十を掲げ、配置を進めている。人材確保の課題などを踏まえて様子を見ている鳥取県教委も「好評ぶりは耳にしている」と関心を寄せ始めた。竹尋小の松岡教諭は「平たんだった授業に変化が出た」と喜ぶ。約二十人の教職員は「おそらく、みんな文系の学部卒」。実験に失敗しても「うまくいけばこうなると、教科書でさらうのがオチだった」という。理科の得意な「パートナー」ができた昨年度からは「納得いくまで繰り返し時間と気持ちのゆとりができた」。ウニとクラゲの授業が終わった理科室。山本和季君(10)が「若い先生が来て、質問しやすくなった」と声を弾ませた。「子どもたちの質問が楽しみ」と過田さん。疑問と納得を繰り返すうちに「理科漬け」になった中学時代を振り返り、その起点に思いをはせた。「当時の理科の先生が、すごく面白かったんです」

H20. 6. 30

教員負担減り力量向上

広島県理科支援員等配置事業
実践協議会委員長の林武広・広
島大大学院教授(57)Ⅱ広島大付
属東雲小・中学校校長Ⅱに、理
科支援員の意義などを聞いた。
Ⅰ理科支援員が学校現場で好
評です。

先生の受けがいい。負担が減
るだけでなくスキルアップにつ
ながると。狙い通りの効果を発
揮している。
Ⅰスキルアップまで期待でき
るんですね。

支援員が得意分野を生かして
授業や教材づくりに参画すれ
ば、先生の勉強にもなる。裏返
せば、教員だけで進めにくい理
科教育の現実がある。

林武広・広島大大学院教授に聞く



Ⅰ授業時間が少なすぎるので
は。

内容を厳選し、限られた時間
で伝える「ゆとり教育」には限
界もある。理科は特に手間がか
かる。時間を削った結果、真

理を追究す
る手段であ
るはずの実
験が目的化
し、単なる
活動で終わ
る傾向が強まった。
Ⅰでも、子どもたちは実験が
好きです。
児童の十人中九人がそう言
う。それが実験を通して考察す
るとなると、たちまち理科嫌い
になる。興味、関心や知的好奇
心を引き出せていない。
Ⅰ教員の力量だけの問題です
か。
学級担任がほとんどの教科を
指導する小学校で、理系出身者
は一割もないだろう。小学校
の教員免許が取れる理系の学部
はほとんどないから。教職課程
の中でも理数分野の単位はほん
のわずか。理科が苦手の教員が
多いのは無理もない。
Ⅰだから支援員が重宝される
んですね。

ただ、人材確保などの課題も
あり、制度が根付くかは未知数。
支援員の最大の意義は、これか
らもずっと理科教育を担う教員
の「目覚め」を後押しすること
にあると思う。